

特別支援教育だより

世羅町立せらひがし小学校

令和元年5月7日 No.1

発達障害って、なんだろう？

発達障害は、広汎性発達障害（自閉症など）、学習障害、注意欠陥多動性障害など、脳機能の発達に関係する障害です。発達障害のある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。発達障害の人たちが個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子どものうちからの「気づき」と「適切なサポート」、そして、発達障害に対する私たち一人一人の理解が必要です。

社会で生きていくためには、社会性やコミュニケーションが必要となります。発達障害のある子どもは、それが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると、さまざまな問題や困難に直面することになります。障害が理解され、適切なサポートがされないと、学校に行くことがストレスとなり、不登校や引きこもりなどの二次障害につながる場合もあります。（政府広報オンライン「発達障害って、なんだろう？」による）

発達障害の特性



- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり



自閉症
広汎性発達障害
アスペルガー症候群

- 基本的に、言語発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

知的な遅れを伴うこともあります

注意欠陥・多動性障害

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）



学習障害

- 「読む」「書く」「計算する」などの能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手



それぞれの特性は重なり合うことがあります。



（裏面へ続く）

発達障害の特性を読んで、「興味・関心にかたより」「多弁」「書くことが苦手」「計算が苦手」のどれかに当てはまるかなと感じた人がいるかもしれません。それは、次のような理由からです。

- 発達障害の特徴を誰もが少しは持ち合わせているかもしれません。
- 発達障害の人と発達障害ではない人の境界はあいまいです。



(厚生労働省発行「発達障害の理解のために」より)

どんなふうに関わればいいのか？

発達障害の人と発達障害ではない人の境界があいまいなため、「わがまま」「やる気がない」など『困った子』と誤解を受けることが多く、どんどん自信をなくしていきがちです。

周りの大人がその子の特性に早く気づき、適切な対応をしていくことで、「自分は認められている」「大切にされている」と感じながら、安心して育っていただけます。

みんなから理解され、支えられることが大切です。



<特別支援教育コーディネーター>

せらひがし小学校に限らず、各学校には「特別支援教育コーディネーター」がいます。これは、子どもたちの発達や育ちの中で保護者の皆様や担任等から「気になる」ことがあるとき、一番最初に学校の窓口になる係です。教育相談や各関係機関との橋渡しや、具体的な取組の計画等を行います。特別支援教育について不明な点がある時やご相談がある時は、まずはコーディネーターにご相談ください。

せらひがし小学校特別支援教育コーディネーター 吉岡 彰彦

配慮していただきたい基本的なポイント

1 できたことをほめる/できないことを叱らない

努力している点やうまく行っている点をほめたうえで、できなかったところは、どのようにすればもっとよくなるかを肯定的、具体的に伝えましょう。

2 視覚的な情報を提示して説明する

その人が理解している言葉を使い、写真や絵などを添えて説明してあげると、理解しやすくなります。

3 説明や指示は短い文で、順を追って、具体的に

言葉で説明するときは、短い文で、一つずつ順を追って、具体的にすると、話を理解しやすくなり、見通しがもてるようになります。

4 安心できる環境を整える

人混みや大きな音、光などの刺激を苦手とする人がいます。そのような刺激による不快感を大きくしないよう、安心できる環境をつくってあげましょう。

5 善悪やルールをはっきりと教える

暗黙の了解や社会のルールが分からないことがあります。いけないことや迷惑なことははっきり教えましょう。注意したり、叱ったりするだけでは、どうしたらよいのか分からないので、具体的にどのようにしたらよいかを教えましょう。

6 発達障害の子ども（人）を温かく見守る

子どもが騒いだり、パニックを起こしたりしているとき、「なぜ親は叱らないんだ」といら立つ場合があるかもしれません。少しの時間待つことで無理に叱るよりも早く混乱から抜け出せることもあります。周囲の人にこうした知識があるだけで、本人も家族も楽になれます。